

牧師室から (2020.9.20)

朝夕、少し暑さが和らいできて、蚊に刺される心配も少なくなったようである。そういえば幼い頃、私は蚊帳が好きだった。その中にいれば、外界から守られているという安心感があった。朝起きると、猫のようにじゃれていたのを思い出す。

愛犬アイネにも避け所がある。雷や、薬を飲ませようとして捕まえようとしたときに、必ず逃げて隠れる隅がある。そこに隠れた時にはもう手を出さないようにしている。犬にも絶対安全地帯は必要であると思うからだ。

アジールといえば逃れの場であり、昔は森の中などであり、今日では例えば亡命者が入り込もうとする治外法権の大使館などである。かつて、ある大使館が亡命者に対して保護義務を怠ったことが問題視されたことがある。古代中東の世界には、犯罪者が祭壇の角をつかむと、誰もその者に手を加えることはできない、という助命の最終手段があった。旧約聖書にも、王位を狙ったアドニヤが失敗して、ソロモンの手を恐れて祭壇の角をつかんで一度命拾いをしたことが記されている(列王記上 1:49~53)。

私たちにとっても、誰もがそれぞれに避けどころが必要であるに違いない。ここにいれば絶対安心という場所があってこそ、外界でおどおどせずに生きて行ける。この世にあっては教会こそが、主に助けを求める人のアジールであるべきであろう。

「神は私たちの避けどころ、わたしたちの砦。苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。」

(詩編 46:2)

(鈴木淳一牧師)